

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

歴史文化資源を活用したシティブランド・ブラッシュアップ・プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

多賀城市

3 地域再生計画の区域

多賀城市の全域

4 地域再生計画の目標

(1) 本市の生活環境

本市は、面積が 19.69 ㎢とコンパクトな市域であるが、市内には4つのJR駅が存在するほか、隣接する市に市民が利用できるJR駅が3つある公共交通が発達した利便性の高い立地である。また、平成28年2月から3月にかけて実施した市民3,000人を対象としたアンケート（以後、「市民アンケート」という。）では、「食料品や日用品を市内で買う市民割合」が90.9%と9割を超え、生活にとっても便利な生活環境である。

平成22年の国勢調査による昼夜人口比率は、約91%となっており、通勤通学地の上位3市は、仙台市43.7%、市内36.9%、塩竈市8.8%と約9割の市民が、市内か隣接する市への移動であり、職住近接の暮らしやすい住宅地として選ばれている。

(2) 自然環境及び歴史的背景・文化的資源

本市西部地区には、まとまった農地や樹林地が存在し、豊かな自然環境が保全されている。

また、特別史跡多賀城跡をはじめ多賀城廃寺などの歴史的文化遺産、多賀城碑や末の松山などの歌枕の地が数多く存在しており、これらを保存維持し、その歴史・文化資源を活用することを基本方針とする「多賀城市歴史的風致維持向上計画」（国土交通省、農林水産省及び文部科学省により、平成23年12月6日認定）を策定している。

なかでも多賀城跡は、奈良時代の政府が陸奥国（現在の宮城県・福島県）を統治するために設置した役所跡であり、行政組織である国府と兵士の駐屯・監督場所である鎮守府が置かれていた東北の政治・軍事・文化の拠点であった。

こうした歴史的背景から、奈良市と多賀城市は平城京遷都1,300年の節目の年である平成22年に友好都市を締結している。

東日本大震災後においては、全国から数多くの支援を頂く中、奈良市や東大寺からも多大なる支援を受けている。平成25年3月には、東大寺に1,200年以上続く「お水取り」の籠たいまつが寄贈され、市民が主催する追悼・復興イベントにおいて点火された。

(3) 課題

前述のとおり、本市は職住近接の暮らしやすい住宅地として発展してきたが、政令指定都市である仙台市のベッドタウン的要素や社宅、公務員住宅及び自衛隊官舎が多数存在すること、また、大学が立地するなどの要因もあり、住民の移動率が高い特徴がある。平成26年度住民基本台帳では、総人口62,203人（H25.12.31現在）に対し、約6.9%の4,296人が転入し、約6.6%の4,149人が転出しており、単純にみると約13.5%の人口が入れ替わったこととなる。この様なことも要因の一つとなり、市民アンケートでは、「多賀城市の歴史や文化に誇りを感じていますか」との質問に対し、「感じている」及び「やや感じている」と回答した市民の割合が50.7%、「あまり感じていない」及び「感じていない」と回答した市民の割合が42.4%となっている。市民の郷土愛が醸成され、本市に愛着を持ってもらうことで、市民の定住化を促進することが重要である。

一方、観光客入込数においては、隣接する仙台市や塩竈市、日本三景松島が存在する松島町に遠く及ばない（平成26年度観光客入込客数 多賀城市：790,779人、仙台市：19,746,251人、塩竈市：2,269,113人、松島町：2,931,249人）状況である。本市は、仙台市と塩竈市・松島町の間位置しながらも、それら市町間の通過点になっており、歴史・文化資源が多く存在するものの、これまでは、保存に重きを置いてきたこともあり、まちづくりや観光客の誘致に活かしきれていないことが課題となっている。

(4) 文化交流拠点（「TAGAYASU」プロジェクト）構想

本市では、平成27年10月に策定した「人口ビジョン」において、次の3点を長期的展望として掲げている。

ア 住んでよし、訪れてよしの魅力的な都市（交流人口の増加）

イ 進学、就職の希望が実現できる都市（人口流出の抑制）

ウ 結婚、出産、子育ての希望が実現できる都市（人口の自然増の促進）

これらの長期展望を横断的・一体的に実施するものとして「TAGAYASU」プロジェクトを本市の地方創生の中心的な取組みとして展開している。

このプロジェクトは、本市の歴史的背景を活かしつつ、多賀城駅前に移転した市立図書館、全国屈指の音響性能を誇る音楽ホールを有する市文化センター、東北歴史博物館などの施設と本市のアイデンティティとも言える歴史的文化遺産を有機的に繋ぎ、文化芸術の創造性を取り入れたまちづくりを行うことで、次のような効果を狙うものである。

※「TAGAYASU」とは、文化（culture）の語源である「耕す」と「多賀城」を掛け合わせた造語

◆ 市民が、文化芸術に触れ、文化的活動を行うことで創造性が高まり、歴史的背景に触れる

ことで郷土愛が醸成される。市民が地元へ愛着・誇りを持ち、ここに住み続けたいと考えるようになる。

- ◆ 多賀城から新しい文化を発信し、地域資源・観光資源とすることで、交流人口の増加が図られ、また、移住者の増加が見込まれる。
- ◆ 文化的活動を通じて、子どもたちの豊かな感性が生まれ、夢を持って楽しく子育てができる家庭が増え、また、子育て世代と地域がつながることにより、子育て環境がより良くなるため、出生率の上昇が見込まれる。
- ◆ 人口移動率が高い本市にとって、多くの転出者にこの様な取組みを行っている本市の魅力を発信してもらうことが、シティプロモーションに繋がる。

(5) これまでの取組等

「TAGAYASU」プロジェクトの一環として、平成28年3月には、本市中心部にあるJR仙石線多賀城駅前に市立図書館を移転オープンさせた。図書館が入るビルには、書店、カフェ、レストラン等が併設され、オープン2ヶ月で約30万人が訪れ、多賀城駅前ににぎわいをもたらしている。移転前の図書館との比較においては、入館者が約16倍、貸出冊数が約3.9倍となっており、にぎわいの創出と共に本市の文化度を押し上げる効果が期待されている。

さらに、市立図書館移転オープンに合わせ、多様な層にアプローチできる絵本をテーマにした様々な文化イベント「2016 多賀城 世界絵本フェスタ」を実施し、12日間の開催で約7,000人の参加があった。なかでも市民の参画を得て制作、上演した絵本音楽劇「多賀城版オペラ 魔法の笛」は、市内外からの多くの観客動員に成功した。

また、仙台北城跡や大崎八幡宮（仙台市）、鹽竈神社（塩竈市）、瑞巖寺、名勝松島（松島町）など仙台北藩ゆかりの文化財で構成される「政宗が育んだ“伊達”な文化」が、平成28年4月25日に文化庁から日本遺産に認定された。本市からは、特別史跡多賀城跡附寺跡、多賀城碑、壺碑（つぼの石ぶみ）、興井及び末の松山（名勝「おくのほそ道の風景地」）の5件が構成文化財となっており、今後は観光資源として、国内のみならず世界中へ情報発信する。

(6) 目標

各種の文化芸術関連事業を継続して実施するにあたり、本市が有する国内屈指の歴史文化資源を、官民連携のもと、新たな手法でブラッシュアップし、本市のシティブランドを一層輝かせ、交流人口（入込客数、東大寺展関連事業参加者数）を増加させる。

交流人口が増加することで、まちのにぎわいが創出され、観光・商工業が活性化するとともに、市民が本市の歴史文化資源を再認識することで、郷土愛が醸成され、市民の定住化の促進に繋がるものと考えている。

また、人口移動率が高い本市の特性から、多くの転出者が、本市の魅力の発信者として、シティプロモーションを担うことにより、移住者の増加に繋がることも想定している。

【数値目標】

事業	東大寺展実行委員会補助事業			
KPI	交流人口の増加数 ※1	実行委員会の働きかけにより新設されたツアー件数 ※2	ツアーによる経済効果額 ※3	年月
申請時	—	—	—	—
平成28年度	10,000人	1件	2,000千円	H29.3
平成29年度	10,000人	1件	2,000千円	H30.3
平成30年度	300,000人	5件	14,890千円	H31.3

※1 この計画での「交流人口」は次のように定義する。

交流人口 = 観光客入込数 + 東大寺展関連事業参加者数

なお、交流人口の増加数については、概ね下表のとおりを見込んでいる。

年度	事業	各事業参加見込み数	交流人口 (KPI)
H28	東大寺展プレ企画	3,000人	10,000人
	歴史的文化資源を活用したアートイベント	2,000人	
	シティプロモーションによる効果	5,000人	

H29	東大寺展プレ企画	3,000人	10,000人
	歴史的文化資源を活用したアートイベント	2,000人	
	シティプロモーションによる効果	5,000人	
H30	東大寺展	290,000人	300,000人
	歴史的文化資源を活用したアートイベント	5,000人	
	シティプロモーションによる効果	5,000人	

(参考：H26 観光客入込数)

19,746千人(仙台市) + 2,269千人(塩竈市) + 2,931千人(松島町) = 24,946千人

24,946千人 × 1.2% ≒ 300千人 → 近隣市町を訪れる観光客の1.2%の誘導が必要

※2 東大寺展及び関連事業を組み込んだツアー(ツアー参加者数は交流人口に含む。)

※3 経済効果の積算方法 = ツアー参加者数(a) × 宮城県内における県外観光客の1人当たりの平均消費額(b)

年度	区分	ツアー数	参加者数 (a)	平均消費額 (b)	効果額 (a×b)
H28	日帰り客	1	200人	10,000円	2,000千円
H29	日帰り客	1	200人	10,000円	2,000千円
H30	日帰り客	2	400人	10,000円	4,000千円
	宿泊客	3	300人	36,300円	10,890千円
	H30 合計				14,890千円

【交流人口の基準値】

観光客入込数	553千人	2014(H26年度)の修正値
東大寺展関連事業参加者数	0人	
交流人口(合計)	553千人	交流人口の基準値

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

文化芸術の創造性を取り入れたまちづくり行う「TAGAYASU」プロジェクトの一環として、東大寺展実行委員会が実施する東大寺展及びその関連事業等に要する経費について補助金を交付するもの。

5-2 第5章の特別措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：東大寺展実行委員会補助事業

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

<目的>

本市が有する国内屈指の歴史文化資源を際立たせる東大寺展をはじめとする事業群を展開することで、本市のシティブランドを一層輝かせ、また、隣接する仙台市や塩竈市、松島町に訪れる観光客を本市へ誘導し、交流人口を増加させる。

<事業の内容>

東大寺は、奈良時代に創建されて以来、幾多の災害や兵火に遭いながらも、いつの時代も多くの人々の力が集結し、復興を遂げてきた。さらに、その復興を通して新たな文化や歴史を創造し続けてきた。その東大寺の歴史に触れることで、被災地東北の創造的復興を叶えるべく、国府多賀城の地で東大寺展を開催する。また、この東大寺展を契機として、国内屈指の歴史文化資源を活用した多様な事業群を展開する。さらに、各事業のPRを兼ねたシティプロモーションを全国的に展開する。これらの事業の実施に際しては、官民連携によって付加価値を高めるべく、官と民とで構成する仮称・東大寺展実行委員会（平成28年度設立予定）で実施することとし、それらに要する経費について補助金を交付する。

<実行委員会が実施する事業>

実行委員会で実施する事業は、市民が参加することで、市民の郷土愛を醸成し、また、シティブランドを磨くことで、多くの観光客の誘致を目指す。東大寺展本展の他に3つの主要な事業を設定している。

【東大寺展本展】

東大寺は、奈良時代に創建されて以来、盧舎那仏の損傷、火災や落雷による仏像や堂宇の焼失、二度の兵火による焼亡などの苦難に遭いながらも、いつの時代も多くの人々の力が集結し、復興を遂げてきた。

幾度となく繰り返された復興を通し、東大寺は新たな文化や歴史を創造し続け、人々に希望を分け与え続けてきた。

東日本大震災からの復興を目指す今、この様な東大寺の歴史に触れることで、被災地東北の創造的復興を叶えるべく、奈良時代に国府が置かれた多賀城の地で東大寺展を開催する。

東大寺展では、「再生と復興」をテーマに天平創建記、鎌倉復興期、江戸復興期などの時代ごとのカテゴリーに分け、東大寺が所蔵する国宝や重要文化財、芸術性の高い品々を展示する。

【東大寺展プレ企画及び関連企画】

東大寺展本展の機運を高めるイベントとして、多様な世代、多様な層を対象とした事業を実施する。内容としては東大寺別当を招いての講演会やミニ展覧会、また東京国立博物館の「ミュージアムシアター」でも用いられているバーチャルリアリティ技術（※）を活用した東大寺のムービーの上映等を行う。比較的若い世代にも東大寺展に足を運んでもらえるよう、インスタグラムなどのSNSを活用したフォトイベント、映画や食を絡めたイベント等を行う。

また、東大寺展本展開催期間中も、東大寺とつながりのある出演者等による関連企画を開催することで、東大寺展本展と関連企画との相乗効果を図り、更なる参加者層の拡大を図る。

※バーチャルリアリティ技術とは、コンピュータで生成された3次元映像の中を移動しながら、あたかもその3次元空間にいるかのような感覚を体験できる技術である。

【歴史的文化資源を活用したアートイベント】

東大寺展との関連性を持たせながら、多賀城の歴史文化資源を活用した事業を展開する。東大寺の「堅い」イメージを和らげ、比較的若い世代にも東大寺展に足を運んでもらえるよう、若手アーティストの招聘や、光のアートインスタレーションイベント、市民参画によるオペラの公演を行う。

これらの事業を本市の歴史的遺産や文化施設を活用し実施することによって、本市の歴史文化資源の価値を市民が再認識すると共に広く多賀城の魅力を発信する。

【シティプロモーション事業】

東大寺展のPRと多賀城のブランドイメージ向上を狙い、首都圏や東北各地の主要駅等にポスターを掲示するほか、各種プロモーションコンテンツを作成し、インターネットにより配信したり、公共スペースに掲出したりする。

また、東大寺展及び関連事業への参加、観覧を組み込んだツアー等を企画し、隣接する仙台市や塩竈市、松島町を訪れる観光客を本市へ誘導する。平成28年度及び平成29年度は主に首都圏を中心とした東日本エリアの居住者を対象に、平成30年度は、全国各地からの参加者を対象にツアー等を企画する。なお、ツアー内容の企画においては、民間ツアー業者等と連携して企画立案を行い、事業実施年度以降も隣接市町や全国から、観光ツアーによって継続的に来訪者が訪れる環境整備を行う。

さらに、バーチャルリアリティ技術を活用した映像コンテンツを作成し、平成30年に東北歴史博物館でのバーチャル映像体験イベントを実施する。また、東大寺展本展終了後は、多賀城市ホームページ等を活用し、東大寺展や関連事業の開催内容やプロモーションコンテンツを発信し、東大寺展により高まった多賀城市への興味や関心を継続させ、更なる多賀城のブランドイメージ向上を図ることを予定している。

<実行委員会が実施する各年度の事業内容>

東北歴史博物館特別展「東大寺展」及び関連事業予定表

年度	実施時期	事業内容	事業費 (千円)
平成28年度	10-3月	○東大寺展プレ企画 東大寺バーチャルリアリティフィルム上映事業、講演会、ミニ展覧会、フォト・食のイベント等	6,000
	3月	○歴史的文化資源を活用したアートイベント 若手アーティスト招聘	14,000
	3月	○シティプロモーション事業 多賀城の歴史と文化に触れるツアー企画	3,000
	小計		23,000
平成29年度	8-3月	○東大寺展プレ企画 映画・食イベント、講演会、ミニ展覧会	5,000
	8-10月	○歴史的文化資源を活用したアートイベント 能、演劇系、光のアートインスタレーション	15,000
	8-3月	○シティプロモーション 公共交通（主に鉄道利用者）PR、各種媒体でのプロモーション等	3,000
	8-3月	多賀城の歴史と文化に触れるツアー企画	1,000
	8-3月	○東大寺展本展開催準備事業	6,000
	小計		30,000
平成30年度	4-6月	東大寺展本展	60,000
	5月	○歴史的文化資源を活用したアートイベント オペラ、ダンス系	10,000
	4-3月	○シティプロモーション 市HP等でのプロモーションコンテンツ発信等 公共交通（主に鉄道利用者）PR	1,000
	4-6月	多賀城の歴史と文化に触れるツアー企画	1,000
	4-6月	○東大寺展関連企画 東大寺とつながりのある出演者等による関連企画等	3,000
	小計		75,000
	合計		122,300

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市の人口ビジョンでは、「本市の目指すべき方向性」として、「住んでよし、訪れてよしの魅力的な都市（交流人口の増加）」を掲げており、その手段として総合戦略においては、文化芸術の創造性を活かすまちづくりを行うこととしている。本事業は、本市の歴史文化資源の魅力を市内外へと効果的に伝え、交流人口の増加に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

【数値目標】

事業	東大寺展実行委員会補助事業				
KPI	交流人口の増加数 ※1	東大寺展及び関連事業の市外参加者の割合（アンケート調査）	実行委員会の働きかけにより新設されたツアー件数 ※2	ツアーによる経済効果額	年月
申請時	—	—	—	—	—
平成28年度	10,000人	50%	1件	2,000千円	H29.3
平成29年度	10,000人	50%	1件	2,000千円	H30.3
平成30年度	300,000人	85%	5件	14,890千円	H31.3

※1 この計画での「交流人口」は次のように定義する。

交流人口 = 観光客入込数 + 東大寺展関連事業参加者数

なお、交流人口については、概ね下表のとおりを見込んでいる。

年度	事業	各事業動員見込み	交流人口(KPI)
H28	東大寺展プレ企画	3,000人	10,000人
	歴史的文化資源を活用したアートイベント	2,000人	
	シティプロモーションによる効果	5,000人	
H29	東大寺展プレ企画	3,000人	10,000人
	歴史的文化資源を活用したアートイベント	2,000人	

	シティプロモーションによる効果	5,000 人	
H30	東大寺展	290,000 人	300,000 人
	歴史的文化資源を活用したアートイベント	5,000 人	
	シティプロモーションによる効果	5,000 人	

(参考：H26 観光客入込数)

19,746 千人 (仙台市) + 2,269 千人 (塩竈市) + 2,931 千人 (松島町) = 24,946 千人
 24,946 千人 × 1.2% ≒ 300 千人 → 近隣市町を訪れる観光客の 1.2% の誘導が必要

※2 東大寺展及び関連事業を組み込んだツアー (ツアー参加者数は交流人口に含む。)

※3 経済効果の積算方法 = ツアー参加者数 (a) × 宮城県内における県外観光客の
 1 人当たりの平均消費額 (b)

	区分	ツアー数	参加者数 (a)	平均消費額 (b)	効果額 (a×b)
H28	日帰り客	1	200 人	10,000 円	2,000 千円
H29	日帰り客	1	200 人	10,000 円	2,000 千円
H30	日帰り客	2	400 人	10,000 円	4,000 千円
	宿泊客	3	300 人	36,300 円	10,890 千円
	H30 合計				14,890 千円

【交流人口の基準値】

観光客入込数	553 千人	2014 (H26 年度) の修正値
東大寺展関連事業参加者数	0 人	
交流人口 (合計)	553 千人	交流人口の基準値

(6) 事業費

(単位：千円)

	年 度	H28	H29	H30
区 分	補助金	23,000	30,000	75,000

(7) 寄附の見込額

(単位：千円)

	年 度	H28	H29	H30
	事業費計	23,000	30,000	75,000
	寄附額計	1,000	1,000	10,000

寄附法人	建設業 A 社	1,000	—	—
	建設業 B 社	—	1,000	—
	金融機関 C	—	—	10,000

(8) 事業の評価方法（P D C Aサイクル）

<評価の手法>

外部有識者により K P I の実績値および事業内容を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

<評価の時期・内容>

翌年度 7 月に外部評価者委員会による効果検証を行い、取組方針を決定する。

<公表の方法>

目標の達成状況および、効果検証結果を多賀城市公式 W e b サイト上で公表する。

(9) 事業期間

平成 2 8 年 9 月～平成 3 1 年 3 月まで

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 3 1 年 3 月 3 1 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

外部有識者により K P I の実績値および事業内容を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

翌年度 7 月に外部評価者委員会による効果検証を行い、取組方針を決定する。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況および、効果検証結果を多賀城市公式 W e b サイト上で公表する。